

頭の中が真っ白・・・発表会デビュー

生まれて初めてのピアノ発表会、弾き始めてすぐに立ち往生してしまい忘れられない発表会デビューとなりました。一念発起して長期間練習を重ね、大曲をひっさげてのデビューだったのですが・・・

①ピアノ歴

ピアノを習っていたのは10歳までの3年間、それ以降と言えば高校3年生の頃受験勉強の気晴らしに好きだったベートーヴェンのソナタ月光の第1楽章をかじりついて弾いていました。この曲は今でも弾けますが、それ以外は何も弾けません。

②なんでまた、この期に及んで発表会デビュー？

家内の生徒さんたちが以前の発表会でベートーヴェンの「悲愴第3楽章」、同じくベートーヴェンの「テンペスト第3楽章」を弾かれているのを聴いて感動、大いに刺激を受け今年の新年の誓いとして「悲愴第3楽章」を再度、半世紀のブランクはありますが「かじりついて」でもやろうと決めました。毎日少なくとも30分練習して、1年半でなんとか終りまで行きついたことから、思い切って発表会に出てみようと思いに分不相応な決断をしたのです。

③つぎつぎ起こる不思議な現象

私は楽譜がスラスラ読めないで指で覚えるしかありません。「悲愴第3楽章」は7ページにわたる長い曲、なんとか弾けるようになったとはいえ発表会が迫ってくるとモグラタタキの様相に・・・

3日前：出だしのメインテーマで繰り返し出てくる美しいメロディーがどうしてもスムーズに弾けなくなりました。最初の出だしが弾き直さないと弾けない、2回目以降は普通に弾けるにもかかわらず冒頭の1回目が弾けないのです。

2日前：それまで全くとちらず弾けていた2ページ目の和音を含む2小節が弾けなくなりました。

1日前：上の二つを何度も繰り返しなんとか乱れていた頭と指のバランスは回復したのですが、ふと、「2ページ目の最初の数小節」、左右の指がバラバラと動くところですが問題なく弾けていたので「こんなところで行き詰まったらそれこそ万事休すだけどこれまで大丈夫だったのだから指を信じよう」と。これが頭の隅にこびりついた悪魔の囁きでした・・・

当日朝：まさに「2ページ目の最初の数小節」の訳が分からなくなり、何度もやり直してようやく、うまく弾けたところで練習はやめてあとは指を信じて本番に臨んだのですが・・・



④演奏中

悪い予感的中、出だしからもたつきましたが、いよいよ「2ページ目の最初の数小節」でいわゆる「頭の中が真っ白」状態に陥り3度ほど弾き直しを試みるも頭も指も動かさず。ここで退場するのも余りにふがいなく家内がくれた唯一のアドバイス「わからなくなったら4ページから出直したら？」に従うことにしました（因みに時間切れで家内のレッスンを受ける余裕はありませんでした）。4ページは曲の雰囲気突然変わり牧歌的な雰囲気になる部分ですが最も苦手で時間がかかったところです。一か八かでしたが結果的にはこれでなんとか奇跡的に持ち直し、もたつきながらも最後まで到達することができました。とはいえ、7ページの曲のうち2ページをすっ飛ばして5ページで済ませたのですからベートーヴェンさんごめんなさい。

⑤思ったこと

楽譜が読めないとだめだ～!!! VIDEO? 絶対に見たくない!!!